



# こあじ冊子

NPO法人

リトルターン・プロジェクト通信

## 特集 コアジサシの行方!! 第4回

そう若くもない女がひとり海峡に行んでいた。毎年渡り鳥の頃になるときまってここに立ち、折り鶴ならぬ「折アジサシ」を海峡の向こうの日本に飛ばすのが決まり事だった。場所はピョンヤンから離れた小さな湊町。「折アジサシ」は母への手紙だった。✉ 岩本久則

# Contents

- ◇ 2025年「コアジサシ講演会 報告」松村雅行 .....1
- ◇ 新連載 ～鳥づくし～ 第1回「キジ」 藤井幹 .....2
- ◇ 特集 コアジサシの行方 第4回「コアジサシネットワーク・岡山県玉島から」 西井弥生 ..3~4
- ◇ 2026年「営巣地作業ボランティアを募集します」 橋本直喜 .....4

### 2025年 コアジサシ講演会 報告 松村雅行

12月6日(土)区立小学校の合同演奏会があり大田区民ホールアブリコはかなりの人混みでした。喧騒を離れて地下に降りると静かなロビーと地下展示室でした。

午後2時から今年もコアジサシ講演会が開かれました。LTP代表開会挨拶に次いで、ご来賓の東京都下水道局森ヶ崎水再生センター山田欣司所長、大田区資源環境部みどり・環境保全担当武藤和志課長のお二人からご祝辞を賜りました。司会進行は、若手ボランティアのホープ、富永千遥さんでした。

第1部は、保護整備部会リーダーと調査研究部会リーダーより、森ヶ崎水再生センター屋上コアジサシ営巣地イベントと屋上で新たに確認されたネズミについて、コアジサシ営巣結果報告、海ほたるでの渡り前集結などについて報告されました。

3年連続でコアジサシのヒナ誕生が見られず、森ヶ崎屋上繁殖成績がそのまま出席者数減少につながったようで、少し寂しい講演会でした。

休憩時間を挿んで、第2部は特別講演「身近なプラスチックが引き起こす海鳥への影響」と題して(公財)日本野鳥の会自然保護室チーフの山本裕さんから、身近なプラスチックが広い海に流れ出し、そこに生息する多くの海鳥に深刻な影響を与えていることをお話いただきました。人間活動に起因する海洋プラスチック汚染により影響を受けている多くの海棲動物のために、今出来ることがあることを多くの方に聴いていただきかったなと感じた講演会でもありました。

LTP副代表からの閉会挨拶でコアジサシ講演会は幕を閉じました。



右・東京都下水道局森ヶ崎水再生センター山田欣司所長、左・大田区資源環境部みどり・環境保全担当武藤和志課長



講演する山本裕氏



質疑応答

## 国鳥・キジ

この原稿を頼まれ、何から始めるかでかなり悩みましたが、やはり国鳥だろうということでキジにしてみました。キジは日本鳥類目録第8版では正式に日本の固有種となりました。昔話でも「桃太郎」に登場することで知らない人もいないのではないのでしょうか。岡山県の県鳥が1994年にホトトギスからキジに変わったのも、県民の意識の中に桃太郎が強くあったからだと思います。「頭隠して尻隠さず」はキジの行動を比喩したことわざですし、「雉も鳴かずば撃たれまい」も有名です。日本最古の文献である古事記や日本書紀にもキジは登場します。野外を歩いていれば、「ケンケン」と大きな声が鳴き響き、「ドドド・・・」と翼を羽ばたかせて音を出す母衣打ち（ほろうち）が聞こえてきます。その方向を探せば目立つところで悠々と立っているキジを容易に見つけることができるでしょう。キジは身近な鳥なのです。そんなキジが国鳥になった理由は何だったのでしょうか。

古い記録を見ると、1947年3月22日に日本鳥学会第81回定例会で議論され決められたとされています。その際の理由は以下の通りです。



キジの母衣打ち(ほろうち)

## 国鳥の定義

- ①日本固有種である。(当初はヤマドリとキジだけが固有種とされていたようです)
- ②本州、四国、九州に広く生息していて留鳥で一年中姿を見られる。人里近くに生息していて山奥に行かなくても見ることができる。
- ③雄は姿が美しく、鳥に興味を持つものなら好きになれる。
- ④大型で肉が良質で、習性上からも狩猟鳥に適しているのので、スポーツとして楽しめる。
- ⑤古事記、日本書紀といった最古の文献にもキジとして登場する。また桃太郎にも登場するので幼い子供達でも知っている。
- ⑥飛び立つ姿が雄は力強く男性的であり、雌は母性愛の象徴とされている。

<写真 藤井 幹>



キジの雄、雌



## キジの母性愛

母性愛の話は、「焼け野の雉(きぎす)夜の鶴」、野を焼かれたキジの雌は卵やヒナを守って親子共々命を落とすということに由来しています。山階芳麿博士は当時、コジュケイで同様の行動を目撃したそうです。国鳥の他の候補としてはヤマドリやハト、ヒバリがあがっていたようですが、このような理由のもと賛成多数で決まったと記されています。④を除けば納得できる内容ですが、④は今の時代だと逆にマイナスに捉えられるかもしれないですね。その後の養殖や放鳥は、狩猟目的だけではなく、普通に見られる鳥として維持しなければならないという意図もあったようです。

## 先人の想いを

キジは今でも私たちの身近な環境で普通に見ることができます。野生個体なのか放鳥個体なのかといつも気にしてしまいがちですが、先人の想いを考えながらキジを見れば、また違った印象を受けそうです。



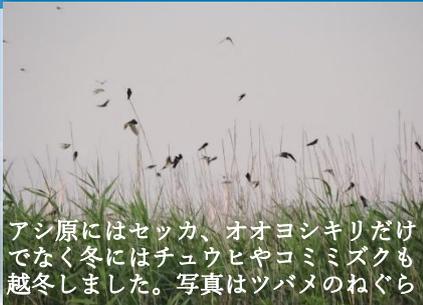
力強く飛び上がったキジは滑翔して移動する



美しい姿のキジの雄

## 藤井 幹・プロフィール

公益財団法人日本鳥類保護連盟調査研究室長。コアジサシの渡りルート、越冬地を特定するため、ジオロケーターやGPSタグを使った調査に従事。著書に『野鳥観察を楽しむフィールドワーク』(誠文堂新光社)、『羽根識別マニュアル増補改訂版』(文一総合出版)、『世界の美しき鳥の羽根鳥たちが成し遂げて来た進化が見える』(誠文堂新光社)、『動物遺物学の世界によろこ！～獣毛・羽根・鳥骨編～』(里の生き物研究会)、野鳥が集まる庭をつくらうーお家でバードウォッチングー(誠文堂新光社)



アシ原にはセッカ、オオヨシキリだけでなく冬にはチュウヒやコミミズクも越冬しました。写真はツバメのねぐら

自己紹介 西井 弥生 (にしい やよい) 岡山県在住の一般人/野鳥観察を続ける中、開発と自然のアンバランスに疑問を感じ、任意団体「たましま 干潟と鳥の会」を発足(絶賛会員募集中)。現地のアセスに記された環境回復事業「人工干潟造成計画」(休止中)を渡り鳥と未来のために実現したい!と活動中。

### はじめに

このたび、こあじ冊子に寄稿させていただくという貴重な機会をいただき感謝申し上げます。活動開始から5年ほどですが、コアジサシの保護は一つの地域で完結するものではなく、全国的な知見の共有と連携が不可欠であると痛感しています。

特に、メーリングリスト「みんなで守ろう!! コアジサシ」のみなさんからの助言は、企業との協働による保護活動にも役立っており、活動の支えとなっています。今回はこの貴重な機会に、これまでの歩みを振り返りたいと思います。

### コアジサシ保護活動に至った経緯

2020年7月、私はいつものように岡山県倉敷市玉島にある人工島「玉島ハーバーアイランド」へ探鳥に出かけ、衝撃的な光景に出会います。

前日までツバメのねぐらだったアシ原は重機により大半がなぎ倒され、倒れたアシの中からは、オオヨシキリの、普段とは違う警戒声がうめき声のように聞こえてきました。日暮れが近づくとねぐらを失ったツバメたちで空が真っ黒になりました。それまで探鳥地として見ていた場所。

そうだった、ここはやがて全て失われる「開発の現場」なんだ。開発が鳥たちに与える深刻な影響を、この日、目の前で見てしまったのです。この場所はコアジサシも繁殖しています。すぐに事業者である岡山県に確認しましたが、「野鳥の生息状況や繁殖への影響は把握していない」との回答でした。問題意識を抱え、横のつながりを模索しましたが、開発地特有の軋轢なのか、地域で連携できる仲間は少なく、大きな壁の前に立ちつくす感覚でした。

### 地域を越えたつながりから得たもの

行き詰まりを感じながらも立ち止まることはできず、日本野鳥の会愛知県支部に連絡を取りました。支部長の新實さんは、面識もない私の相談に丁寧に応じて下さり、その後の活動を支える大きな力となりました。また、現地がシギ・チドリ類の重要な生息地となっていることから、「シギチドリ Online ミーティング 2021」(SSSML・環境省)で現状を報告し、全国の有識者の方々とつながることができました。わからないことがすぐに質問できたことは非常に心強く、一気に視界が開けた感じがしました。



造成地の水溜りで水浴びするコアジサシとシロチドリ

### メーリングリスト「みんなで守ろう!! コアジサシ」の立ち上げ

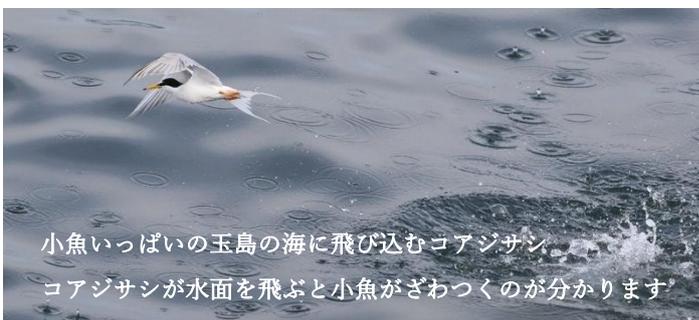
玉島の抱える問題は各地に共通することもあり、愛媛や大阪など徐々に参加者が増えていきました。当時使っていたチャットツールのサービス終了に伴い、愛知県支部とLTPとともに、現在のMLの運用が始まりました。

参加者は研究者、NPO、個人と多様で、北は宮城から南は沖縄まで全国に広がっています。各地の繁殖状況や天敵対応の事例などが共有され、各地の経験をそれぞれの現場に生かすことができていると実感しています。

<次ページへ>



人工島は全部で245ha、現在は残りの46haが着工中  
写真は浚渫工事



小魚いっぱいの玉島の海に飛び込むコアジサシ  
コアジサシが水面を飛ぶと小魚がざわつくのが分かります



かつては広大な干潟だった場所に立地する人工島には  
春秋の渡り期と越冬期に多くの渡り鳥がやってきます



現地でコアシサシの観察会（産官民の協働）

### <前ページより> おわりに

鳥学会 2024 東京大学大会の自由集会「コアシサシ 国勢調査」の報告では、2024 年の日本のコアシサシ 最大飛来数は 5,500 羽と推定されました。

この結果から、今後はそれぞれの地域活動も重要ですが、広域的な保護につながる何らかの取り組みがさらに重要になってくるのではないかと思います。本 ML はそのための小さな土台にすぎませんが、コアシサシを守りたいと思っている誰かの大きな力になると信じています。コアシサシ保護に興味関心のある方ならどなたでも参加できます。ぜひこちらまでご一報下さい。

⇒E-mail: [mm.koajisashi.ml@gmail.com](mailto:mm.koajisashi.ml@gmail.com)



たましま 干潟と鳥の会  
WEB サイト



## 2026年 営巣地整備作業のボランティアを募集します。

橋本直喜

◎日程 2026 年 3 月 28 日（土）29 日（日）9:30～16:00

※午前または午後の半日だけの参加も可能です。◎対象 小学生以上

（中学生未満は親御さんの同伴が必要です）

※保険手続きの関係上、事前申込をお願いいたします。

※各日/申込順 60 名まで。

◎作業場所 東京都下水道局森ヶ崎水再生センター、東施設屋上コアシサシ営巣地 大田区昭和島 2-5-1

※車でのご来場はご遠慮下さい。近隣に駐車場ありますが自己責任でお願い致します。自転車でお越しの場合は事前にご連絡下さい。

◎集合場所 東京モノレール 昭和島駅 東口（集合場所は一か所だけです）

◎作業内容 草むしり作業・終了後、通路の貝殻戻し作業など・通路、排水口周りなどの清掃。

※悪天候中止などの連絡は、前日 20:00 までに当ブログに「中止/実施」の掲示をいたします。（携帯からも見られます）LTP ブログ：<http://d.hatena.ne.jp/littletern/>

※作業当日の緊急連絡先は参加申込者に事前にお知らせいたします。

<申込み/問合せ>

「氏名」「住所」「電話番号」「作業希望日・1 日/午前のみ/午後のみ」「リトルターン・プロジェクトのブログを見ることができるか、できないか」を明記の上、3 月 15 日（土）までにお申し込みください。

\*グループでご参加の場合には、参加者全員の必要事項をご記入ください。

◎申込先（携帯メールも OK）…メールの宛先：[hogoseibi@littletern.net](mailto:hogoseibi@littletern.net)

※[hogoseibi@littletern.net](mailto:hogoseibi@littletern.net) からのメールを受け取れるよう設定の変更をお願いいたします。

◎営巣地整備作業に関するお問い合わせは…メールでの問合せ先：[info@littletern.net](mailto:info@littletern.net)

LTP ホームページ：<http://www.littletern.net/>の「お問い合わせ」からも可能です。



LTP ブログ・こちらから  
← もご覧になれます。



会員になって一緒にコアシサシを守りましょう！  
NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥“コアシサシ”を守りませんか？

◇入会届のダウンロード先◇

<https://littletern.net> のメニューから入会案内へ

◇入会届の送付先◇

〒143-0015 大田区大森西 5-10-22 増田方

NPO 法人リトルターン・プロジェクト宛

または、E-mail:[info@littletern.net](mailto:info@littletern.net)

へご連絡ください。

◇発行：NPO法人リトルターン・プロジェクト

◇編集 増田 直也

◇表紙画 岩本 久則

◇タイトル レタリング 喜多村 紀

☆問い合わせ先

E-mail:[info@littletern.net](mailto:info@littletern.net)

NPO 法人リトルターン・プロジェクト

Website-URL <https://littletern.net>

ブログ更新中 <https://littletern.hatenablog.com/>



HP はこちらから